

第5回策定委員会(9/27)のご意見に対する対応表

対象	意見	対応方針
<p>第5章 全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の計画として「水と緑と歴史がおりなす笑顔あふれるまち ぎょうだ」とあり、4つの地域の計画をつくるときに、ブレイクダウンして4つの地域に振り分けたという感じがしてならない。 ・中心部地域であれば、歴史ある風格や大変良い交流の雰囲気を持っているので、風格の高い中心市街地、というものを目標として打ち出してはどうか。 ・西部地域では、多世代が快適に暮らせるまちも良いが、新しい人が入ってきて暮らせる、中心市街地とは違う別の新しいまちをつくるんだ、という将来像が見えると良い。 ・北部地域は、利根川が北にあり、武蔵水路と取水口があり、豊かな水を首都圏に供給していることに誇りを持ちつつ、穀倉地帯として農業的な環境をこれからどうやって育てていくのか、ということをはっきりうたってもいいのでは。 ・南東部地域については、「地域経済を牽引する」という方針を活かして、将来像も出してはどうか。 <p>・ほとんどの意見が、人口フレームとその人口がどこに住むのか、土地利用の需要があるのか、というところにかかっている。125号バイパス沿道の土地利用と中心市街地の活性化など相反するものの調整や、市街化調整区域の土地利用見直しに関しては農業の保全しなければならない一方で、地域の活性化のために住宅地へ転換したいなど、矛盾として出てくる点の整理が非常に重要だと思う。</p>	<p>→ご意見を踏まえ、地域の特性をより活かした将来像とするために、4地域の将来像を以下のように修正しました。</p> <p>■中心部地域</p> <p>【修正前】水と緑と歴史を身近に感じることができ、必要な都市機能が揃った、歩いて暮らせる便利なまち</p> <p>【修正後】水と緑を身近に感じ、歴史の風格が漂う、歩いて暮らせる便利なまち</p> <p>■西部地域</p> <p>【修正前】南の玄関口としてふさわしい都市機能と風格を備え、多様な世代が快適に暮らせるまち</p> <p>【修正後】鉄道の利便性を活かし、人々が行き交い、快適に暮らせるまち</p> <p>■北部地域</p> <p>【修正前】豊かな水と緑に囲まれ、支えあえる地域コミュニティが充実し、安心して住み続けられるまち</p> <p>【修正後】利根川の恵みを受けた豊かな水と緑に囲まれ、安心して住み続けられるまち</p> <p>■南東部地域</p> <p>【修正前】歴史と自然を身近に感じながら、安心・快適に暮らせるまち</p> <p>【修正後】古代からの歴史や自然と共存し、新たな活力の源として発展するまち</p> <p>→基本的には農地を保全していく一方で、需要が高いと見込まれる場所については土地利用を検討するなど、メリハリをつけた位置付けを行っています。</p> <p>→具体的手法等の詳細については、庁内の土地活用検討委員会において検討を進めていきます。</p>

対象	意見	対応方針
	<ul style="list-style-type: none"> ・主な担当課が明記されたが、なおかつ、何年までにやるのかという年次計画が位置付けられれば、市職員も張り合いが出るのではないかと思う。 	<p>→年次計画については、内部で調整してきましたが、都市計画マスタープランの性格上、年次計画まで入れるのは難しいと考えています。</p> <p>→第6章の中で、先導的に進めていく事業をリーディングプロジェクトとして位置付けを行います。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・担当課が明記されたが、全体をコントロールしていくのは都市計画課、ということで良いか。 	<p>→都市計画課で進捗管理を行います。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・分野別の整備方針や地域別構想について、県土整備事務所の道路担当とよく調整していただき、表記がこれ良いのかどうか、また年次計画については非常に難しいと思うが、調整していただきたい。 	<p>→県都市計画課からも、国道道の表記については県土整備事務所との調整を図った上で記載していただきたいとの見解を承っています。今後、担当者の方との調整を進めます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画マスタープランには子どもに関わる内容は安全ぐらいで他には何もないが、教育の視点は重要だ。 ・小さい村が合併してできた行田市には地域それぞれに学校があるが、来年入学する1年生が1人の学校もある。学校の整備を考えていくことが人口を安定させるのにつながる。 ・行田市に住む若い人がいなくならないよう、行田市で育った子が行田市から出ていかない、それをベースにしてはどうかと思う。 	<p>→学区の考え方については、地域住民の意向を踏まえた長期的な整理が必要であるため、本計画では現在の小中学校区を基本としています。なお、関係部署による方針が示された折には、見直し時に反映してまいります。</p> <p>→行田市からの流出を防ぐために、子育て環境の充実や就労場の創出などを方針として盛り込んでいます。</p>
<p>5-1 中心部地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「忍城址周辺整備基本計画に基づいた整備」とあるが、平成17年に策定したこの計画はどのような内容なのか、また、都市計画マスタープランとの関連性を教えていただきたい。 ・策定の際に地域の方々や地権者の方々も委員として参加されていて、事業の進捗がどうなっているのか、買収はあるのかなどという意見を聞くことがある。 ・秩父鉄道の行田市駅にはエレベーターが設置されていない。南北に通るのにエレベーターがあれば今後の超高齢社会にも良いと思うので、エレベーターの設置をプランの中に入れていただければと思う。 	<p>→「忍城址周辺整備基本計画」は、忍城址から水城公園までを一体的に関連性を持たせて整備しようと策定しました。都市計画の一体性を確保する観点から、拠点形成を図るということで位置付けています。</p> <p>→計画の推進については、市の3ヵ年計画に位置付け、現在どう取り組むかを具体的に検討しています。</p> <p>→第4章分野別の整備方針及び第5章地域別構想の関連する施策の中で、「橋上駅へのエレベーターの設置など」と例示的に記述します。</p>
<p>5-2 西部地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成10年に策定された都市計画マスタープランによると、前谷地区を文教ゾーンと位置付けるとともに、ものづくり大学周辺に定住型住宅地を開発する、という文言が入っていたが、これは断念したのか。 ・今回の人口フレームでは、自然推移であれば64,000人弱になる定住人口を70,000人に設定しているのだから、どこかで突破口を開かないと絵に描いた餅になってしまう。ぜひしっかり取り組んで欲しい。 	<p>→平成10年に策定した都市計画マスタープランは、当時の上位計画である第3次総合振興計画に基づき、前谷地区の文教ゾーンを位置付けました。</p> <p>→今回の計画についても、前谷地区や持田地区における住居系土地利用への見直しを盛り込んでいます。</p>

対象	意見	対応方針
	<ul style="list-style-type: none"> 西部地域で住居系の位置付けを検討するということだが、持田地区についてはどのような手法を想定されているのか。 例えば、市街化区域への編入を検討する場合、住居系の枠があるのかどうかや人口見込みなど、前提条件を教えてくださいと、意見を聞いてもらっても結局絵に描いた餅になる。 JR 行田駅周辺について、「南の玄関口として人々が行き交うまちづくり」とあるが、現状では駅から南大通まで商店が数店ある程度で後は駐車場が大半となっており、現在は車が行き交うまちになっている。前の都市計画マスタープランでも同じような開発計画を位置付けているが、実現していない。行田の玄関口に来てみたら、観光案内所も時間が短くあるかわからない状況、お店に寄って聞こうとしても駅から降りて最初のお店に行くためには 300～400m 歩かなければならない。南の玄関口と書くのであれば、それなりの覚悟を持って進めていただかなければならない。 	<p>→庁内の土地活用検討委員会において、今後、手法や区域について詳細な検討を進める予定です。</p> <p>→駅前の再整備についても、庁内の土地活用検討委員会の1つのテーマとして取り扱っています。</p> <p>→今後、しっかりとその実現方策について検討を進めます。</p>
5-3 北部地域	<ul style="list-style-type: none"> 集団的な優良農地の保全とバイパス等の沿道の見直しについて矛盾を感じるが、その点はきちんと分けて整理し、またハードルとして地権者の問題以外に何があるのか、明確する必要がある。国道 125 号などは沿道にいろいろな業者が入ってきて活気が出ているので、全体でなくても一部の沿道だけでも土地利用が出来るような形で文言が入れられれば、考えた方がいいのではないかと思う。 	<p>→沿道系開発については、庁内の土地活用検討委員会において検討を進めています。</p> <p>→現時点の計画内容については、検討結果に応じて、土地利用エリアが小さくなる可能性もあります。</p>
5-4 南東部地域	<ul style="list-style-type: none"> 上尾道路については、具体的にいつ頃の話なのかかわかるのであれば、何年後に利便性が良くなるので何地域の活用をしていける、という内容を入れていけると良いのではないか。 北部地域に武州荒木駅があるが、隣接する地域として南東部地域の太田地区も入っており、どちらの住民も交通アクセスに不満を持っている。南東部地域では JR 駅へのアクセス不便というのが挙げられているが、太田地区は武州荒木駅の範囲に入るのか。 南大通線が開通して JR 行田駅までは近くなったが、北側を見ると 125 号バイパスで止まっている。南大通線は 125 号バイパスで突き当たりではなく、少なくとも武州荒木駅まで延ばして JR 行田駅と 1 本の道で結ばれると、今後有益な道路になると思う。 	<p>→圏央道の桶川北本インターチェンジから北側の 2 期工区は昨年度事業がされましたが、完成目標年次については、大宮国道事務所から回答が難しいと伺っています。</p> <p>→南大通線の延伸については、交通需要や市民まちづくり会議、地域別懇談会での幹線道路整備に関する意見を踏まえ、今回のマスタープランへの記載は難しいと判断しました。今後、見直しの際に検討していきます。</p>